

1. 教育方針

香川短期大学は、生活文化学科（生活文化専攻、食物栄養専攻及び生活介護福祉専攻の3専攻）、子ども学科第Ⅰ部、子ども学科第Ⅲ部、経営情報科の4学科の構成である。本年度より、生活文化学科生活文化専攻を①食と生活ユニット群、②医療事務ユニット群、③図書館司書ユニット群とし、経営情報科を情報ビジネスコースとデザイン・アートコースとコースの名称と内容を変更した。在学中に栄養士・保育士・幼稚園教諭二種、フードコーディネーターの免許や医療事務、図書館司書資格、介護福祉士国家試験受験資格等を取得できるようにカリキュラムを編成している。また、「愛敬誠」の建学の精神に則り、幅広く深い教養を培い自主・自立の精神を養うとともに、豊かな人間性を涵養し、それぞれの専門とする分野の知識と技術の向上を図って、地域社会に貢献できる人材を養成、さらに、産官学連携・地場産業の振興支援や子育て支援等、大学COC機能を強化、地（知）の拠点として地域を志向した教育・研究・社会貢献を目指した。

2. 事業報告

(1) 学則の変更及びカリキュラムの改革

【学 則】①生活文化学科生活文化専攻課程の学生募集停止に伴い、「生活文化学科生活文化専攻課程」に関する部分を削除、②附則に「生活文化学科生活文化専攻課程の存続に関する経過措置」を記載、③経営情報科に司書養成課程の導入

【カリキュラム】○<生活文化専攻>生活文化学科生活文化専攻課程の学生募集停止に伴い、「生活文化学科生活文化専攻課程」に関する開講科目一覧を削除○<生活介護福祉専攻>『食生活論』、『食と健康』、『フードコーディネート論』、『フードコーディネート実習Ⅰ・Ⅱ』、『フードマネジメント』を廃止。○<子ども学科第Ⅰ部・第Ⅲ部>「こども音楽療育士」の資格取得に必要な『こども音楽療育概論』、『こども音楽療育演習』、『こども音楽療育実習』を新設。○<経営情報科>『観光英語Ⅰ・Ⅱ』を新設、留学生への対応として『日本事情Ⅰ・Ⅱ』を新設。司書養成校に必要な文科省の定める「図書館に関する科目（必修科目・基礎科目）」の『生涯学習概論』等15科目を新設。

(2) 自己点検・評価等の実施

- ① 認証評価（31年度）に向けて業務が円滑に実施できるように準備室を設置した。
- ② 平成29年度香川短期大学教育推進協議会（外部評価）を開催し、「次の50年に向けて本学のあるべき姿～地域共に歩むコミュニティ・カレッジを目指して」をテーマに、学外の有識者委員から意見・提言等を頂き、大学運営に反映させた。
産官学連携・地場産業の振興支援や子育て支援、地元産業での定着化の促進などについて、意見交換が行われた。留学生についての質問もあった。
- ③ 「学生による授業評価」を実施し、教員の授業におけるスキルアップと改善、授業へのフィードバック、学生の事業に対する要望や満足度の調査・分析を行った。これにより、教員個々の指導力及び指導方法の改善がみられた。
- ④ 「学生生活実態調査」を実施・分析し、学生生活満足度の向上を図った。また、平成23年度から意見箱を設置、学生の不満や要望等の情報を収集・分析し、その対応等を行った。学生食堂も単なる食堂ではなく、学生同士の憩いの場として機能している。ラーニングコモンズを利用し、自ら学習する学生が多くなった。

(3) 職員研修（教員、事務職員等）

教員・事務職員の能力開発のため「四国地区教職員能力開発ネットワーク」に加盟している。そのプログラムとして講師を招聘して「現代学生の理解と関わり方」、「アクティブラーニング入門 すぐできる効果抜群試験紙法」、(SPOD) 総会の伝達講習会などを開催した。

ハラスメント防止研修会開催、また夏季に実施した法人の研修会にもほぼ全員が参加した。

大学間連携での合同SD研修は鳥取短期大学で「ワークライフバランス」に4名が参加した。また、本学で開催した「ハラスメント防止」の研修会に鳥取短期大学から3名の参加があった。

今年度は多くの研修会を開催し、職員の研修する機会を確保できた。各研修会の開催日時の調整が難しく、今後の課題である。

(4) 学生支援、学習環境の整備

創立50周年記念式典を来賓約100名を迎え、学生主導による式典を11月25日に実施した。

また、創立50周年事業として、1階ホール部分の改修（照明器具LEDの変更）ロータリーの改修、枯山水の整備、1階トイレの改修を行い校内の環境を整備した。1階講義室付近の整備も同時に実施し、学内外の照明を修理し、学生職員の安全を確保することができた。

(5) 大学の地域貢献等

宇多津商工会とそれぞれが保有する資源を活用して、広範囲な教育・研究面の向上や地域企業の課題解決等地域振興に貢献する目的に「包括的連携・協力協定」に基づき、宇多津町の歳末大売り出しのホスター作成などを実施し高い評価を得た。

「産・官・学・民」連携事業:公益財団法人かがわ産業支援財団の助成事業として、製造技術開発、レシピ開発の分野で研究協力に取り組んだ。

地域との交流拠点である「地域交流センター」は、宇多津町と連携し本学の施設を有効に活用し、公開講座やカルチャー講座を開設、継続事業として、平成相聞歌、アロハナイト等の行事を主催・共催した。本学学生や教職員の地域社会への取り組みや、ボランティア活動の具体を記事として掲載している「katan Clover」発刊し、地域社会に情報発信した。

「香川県大学等魅力づくり補助金」を活用して、「生活文化専攻・食物栄養専攻インターンシップ」、「ビジネスマナー甲子園」、「お弁当の日甲子園」、「保育出前講座」「福祉の出前講座」「PC検定研修会及び支援制度導入」の様々なプロジェクトを実施した。

3. 継続実施事業及び今後の検討課題

① 将来構想（大学組織改革等、グランドビジョンの検討）

部局の統廃合を実施、5つあった部局を2つの部局に集約し組織をスリム化した。

中長期的観点から職員の昇格、配置換えを行った。

② 高大連携（接続）の強化と学生数の確保に繋がる制度・施策の対策と充実

各学校への出前授業の実施を行った。

③ 子ども学科教育課程の見直しと改革（幼稚園教諭養成課程の内容見直しに対応するため）

④ 国際交流の推進（海外の交流締結大学との事業推進）

新たに海外（中国）の大学と交流締結に向けての事業推進を実施、教員及び学生を派遣した。

⑤ 大学間交流（帯広大谷短期大学・鳥取短期大学）の推進（学術交流、学生・教員の交流等）

各大学と学生、教職員の交流を実施した。各大学で開催される研修会に互いに数名の教職員を参加させた。次年度も引き続き研修会を受講し個人のスキルアップを目指す。

⑥ アクティブ・ラーニングを念頭に、学習環境の整備、施設・設備の改修等

留学生に対応するため、机等の整備を行った。

⑦ 学務システムによる学生カルテ（学習ポートフォリオ）の充実及び各部局等との情報の共有

新しい学務システムを導入した。学生サービスの向上を目指す。

⑧ 大学情報公表（大学ポータル）の徹底と大学内外への情報発信の強化及びHP等の充実

⑨ 外部資金等の獲得（「地域創生事業」、「科研」、「特別補助」「寄附金」「事業収入等」の検討）

委員会で検討を実施し、外部資金の獲得ができた。今後は資金の獲得は厳しい状況である。

⑩ 大学COC（Center of Community）機能の強化（大学と地域（産・官・学・民）との連携）

○生涯学習の拠点及び社会の知的基盤として、地域を志向した教育・研究・社会貢献の推進

⑪ 震防災・減災対策の推進（県・宇多津町等防災・減災対策の具体化を検討及び備蓄等の整備）